

『試し実践活動』の報告（3班）

1. ねらい

今年度は、「世界に誇れる石巻地域にしよう（あいさつ・清掃・ゴミ拾い）」というねらいの下、活動が始まった。より多くの人を通る場所を綺麗にしたいということで、3班は石巻駅をスタートして立町周辺のゴミ拾い活動を行った。「世界に誇れる綺麗な街」を石巻を訪れた方々に発信するという目的で活動した。

2. 実施日 平成27年7月5日（日） 8:00～9:00

3. 活動の記録

石巻駅をスタートし、立町周辺を中心にゴミ拾い活動を行った。

駅周辺はゴミの量は少なかったが、立町（3班は七十七銀行側を中心に行った）に入ると一気にゴミの量が増えた。中でもタバコの吸殻と空き缶の量が突出していた。また、立町の中にも東日本大震災の傷跡が鮮明に残っている場所が何箇所もあり、その更地にゴミを捨てていく人が多く、みんなで細部までゴミ拾い活動を行った。側溝の奥にゴミがたまっている光景を目の当たりにした塾生は、火バサミを使って奥まで手を伸ばし、時間が経つのも忘れてゴミを拾った。中には、傘やマンホールのふたなども落ちており、自分たちの目を疑った。ゴミ拾い活動を通して、「マナーを守って生活していくことの大切さ」も学んだ取組になった。

ゴミ拾いを始めると時間が過ぎるのはあっという間で、見る見るうちにゴミ袋はいっぱいになり、終了予定時刻になった。

活動を始めた頃は、黙々とゴミを拾うだけだったが、時間が経つにつれ、すれ違った方とあいさつを交わしながらの取組となった。

集団でゴミ拾い活動に取り組む活動を今回行った。今後は、この取組を個でも行えるようにしていきたい



『試し実践活動』の成果と課題（3班）

<成果>

- 大通りは比較的ゴミが少なかったが、脇道に入るとゴミの量が増えることに気付くことができた。
- 初めはゴミ拾いのみに取り組んでいたが、途中からすれ違った人たちや地域の方々に率先してあいさつをすることができた。
- 側溝や用水路の奥の方までゴミを拾っている塾生の姿を見た他の塾生が別の場所で同じように率先してゴミ拾い活動に取り組んでいた。仲間の良さを吸収しようとする姿が見られた。

<課題>

- 大通りよりも路地の方がゴミの量が圧倒的に多かった。このことからゴミを捨てる人は少なからず周りの人の目を気にしているのではないかとということが分かった。どのような状況でもゴミは捨ててはいけないという風土作りが必要である。

『今後の実践活動』について（3班）

活動内容

立町の一本奥の通りのゴミ拾い活動。

（前回の活動から、「大通りよりも路地の方がゴミを捨てる人が多いのではないか」という考察をした。また、「ゴミが落ちていると他の人たちも捨てる傾向がある」のではないかと考えた。以上のことから、今回は立町の一本奥の通りのゴミ拾い活動を行いたいと考えた。）

ねらい

川開き祭りや帰省客などで普段よりも多くの人たちが石巻を訪れる。ゴミ拾い活動を行って街を綺麗にし、石巻を訪れた人たちに気持ちよく過ごしてもらおうようにする。

日時

平成27年8月8日（土） 午前7時30分～午前9時00分

平成27年度耕人塾 3班の実践活動報告（第2回）

1. ねらい

今回は、立町商店街の人通りの多い所を中心にゴミ拾い活動を行った。後半、路地に入ってみると空き地や側溝などにゴミがたくさんあったので、2回目はあまりゴミ拾い活動がされていないような箇所を綺麗にしようというコンセプトの下で活動した。

2. 実施日 平成27年8月8日（土） 7:30～9:00

3. 活動の記録

今回も石巻駅をスタートし、ゴミ拾い活動を行った。

今年もボランティアの方々が、川開き祭りの翌朝にゴミ拾い活動を行ってくださったので、石巻駅周辺にはゴミの量が少なかった。

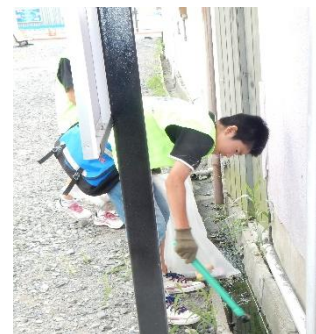
しかし、大通りから一步脇道に入ってみると様子は一変した。雨が降った後、晴れて必要のなくなった傘や川開き祭りの際に焼き鳥や焼きそばなどのパックを止めていた輪ゴムがたくさん落ちていた。また、どこのゴミ拾い活動を行っても圧倒的に多いのが大人が吸ったタバコの吸殻であることが分かった。地域を綺麗にするには大人のマナーの向上が必要不可欠なのではないかと感じた。

また、ビルの階段下にたまっているゴミや側溝にヘドロまみれになって異臭を放っているゴミも塾生は嫌な顔一つせずに拾っていた。



4. 活動を通して感じたこと

ゴミ拾い活動を通して、ゴミが落ちていない綺麗な街にすることは回数を重ねることによって可能だと考えられる。しかし、今回の活動を通して路上に飲み物や食べ物の汁などを捨てて路面が汚くなってしまっている箇所があった。このような場所をどのようにしていくかが大きな課題なのではないかと考えられる。



文責：石巻市立湊中学校 教諭 畠中 隆廣

『試し実践活動』の報告（4班）

4班は7月5日（日）の午後1時～2時の時間帯に開成団地周辺の歩道で清掃活動をしました。天候に恵まれ、活動しやすいコンディションの中、取り組みました。

新興住宅地側のアスファルト道にはたばこの吸い殻が目立ち、買い物袋の3分の1近く集まりました。反対に仮設側の歩道の草陰には空き缶（缶ビールが多かった）や空き瓶、ペットボトル、乾電池、缶詰・缶詰のふた等が多く捨ててあり、それぞれ買い物袋が満杯になるほど集まりました。一見すると雑草が生い茂っているだけに見えた仮設側アスファルト道ですが、足を踏み入るとあちこちにゴミが落ちていることに塾生は驚いていました。活動の中で、草刈りをしている地域住民と出会い、あいさつを交わす場面がありました。塾生の気持ちのよい自然なあいさつに対し、お褒めの言葉をいただきました。ほほえましい場面でした。1時間ほどの活動の中で、45Lのゴミ袋いっぱいの燃えるゴミ、ガラス片や空き瓶などの燃えないゴミ、Lサイズの買い物袋いっぱいのペットボトル・空き缶が集まりました。

今回の活動を通して感じた達成感や充実感、地域住民との交流の喜びを次回の実践活動につなげていきたいと思います。



『試し実践活動』の成果と課題（4班）

成果

- 定期的に清掃を続けないと、きれいな状態を維持することはできないということに気付いた。
- 仮設団地側歩道と新興住宅地側歩道とに、ゴミの落ちている割合に差があり、雑草の除去をした方がポイ捨て防止につながることに気付いた。
- 清掃活動を通して、地域住民との交流を図ることができた。

課題

- きれいな状態を維持するために、周囲の住民にきれいな町をつくろうとする意識付け・空気作りをする必要がある。そのために、啓発を図るポスター作りや清掃ボランティアを募るポスター作りをする必要がある。

『今後の実践活動』について（4班）

活動内容

開成団地のゴミ拾い（前回活動できなかったエリア）

日時

8月2日（日）午後1時 開成団地前ミニストップ集合

『実践活動』報告②（4班）

4班は8月2日（日）の午後1時～3時の時間帯に開成団地周辺の歩道で2回目の清掃活動をしました。前回活動できなかった区間を清掃しました。天候に恵まれ、活動しやすいコンディションの中、取り組みました。

前回同様、新興住宅地側のアスファルト道に、たばこの吸い殻が目立ちました。反対に仮設側の歩道の草陰には空き缶（缶ビールが多かった）や空き瓶、ペットボトル、乾電池等が多く捨ててあり、それぞれ前回は上回るほどの量が集まりました。雑草が生い茂っている箇所にはペットボトルや空き缶がいくつもあつたうえ、仮設の駐車場に目を向けると灰皿の中身をそのまま捨てたであろう吸い殻の山がいくつもありました。活動の中で地域住民と出会い、あいさつを交わす場面がありました。塾生の気持ちのよいあいさつが自然に発せられたことに、あいさつの習得を感じました。1時間半ほどの活動の中で、45Lのゴミ袋いっぱいの燃えるゴミ、ガラス片や空き瓶などの燃えないゴミ、Lサイズの買い物袋いっぱいのペットボトル・空き缶が集まりました。

今回の活動を通して感じた達成感や充実感、今後の活動への課題を明確にし、次回の実践活動につなげていきたいと思えます。



文責：石巻市立蛇田中学校 教諭 菅井 龍成

『試し実践活動』の報告（5班）

- 1 日 時 平成27年7月5日（日） 9:00～10:00
- 2 場 所 石巻駅北通り～石巻駅前駐輪場
- 3 活 動 石巻駅周辺のゴミ拾い
- 4 参加人数 塾生4名, 担当2名
- 5 活動内容

（1）駅北側駐輪場や駐車場周辺

石巻駅の北側にある駐輪場を中心にゴミ拾いを実施。予想していたよりはゴミが少なかったが、植木の陰などに空き缶などが捨ててあった。所々にたばこの吸い殻が割れた瓶などもあった。

近くにある駐車場に移動でもごみ拾いを実施。月極駐車場となっており、日頃からゴミ拾いが行われている様子ではなかった。空き缶や吸い殻、ビニールなどのゴミが多く、特に端の方の草むらに多く捨ててあった。約20分程度ゴミ拾いを行うことで、きれいにする事ができた。



（2）線路沿い

線路沿いを歩きながらゴミ拾い活動を続けた。やはり、たばこの吸い殻や空き缶、ペットボトルや割れた陶器が多く捨ててあった。路上よりも、線路を囲むフェンスの内側に多く捨ててあった。フェンスの隙間から取れるゴミは拾ったが、ほとんどが中の方の線路脇にあったため、ゴミがあると分かっても拾うことができなかった。



(3) 駅前駐輪場

駅前まで移動し、駐輪場のゴミ拾いを行ったが、ほとんど落ちていなかった。活動していると、シルバーセンターの方が近付いてきて声を掛けてくださった。お話を伺うと、震災後から市からの委託を受けてゴミ拾いを定期的に行っており、アスファルトやコンクリートの上に落ちているゴミを拾うのが担当であるようだ。そのため、空き地や草むらに落ちているゴミは担当外とのことだった。以前ゴミ拾いをしていると、わざと近くで吸い殻やペットボトルなどを捨てる人がいたという。ゴミ拾いをする 것도 大事であるが、人々のモラルを向上させることが必要とのことだった。



平成27年度 第3回耕人塾の話し合いから

『試し実践活動』の成果と課題（5班）

【成果】

- ・ 実際にゴミ拾い活動を行うことで、予想よりも多くのゴミが捨てられていることが分かった。
- ・ 駅の北側のゴミ拾いを行ったことで、人通りの少ない場所の方が捨てられているゴミが多いことが分かった。特に、草むらや空き地、フェンスの中など目立たない所に多く捨てられていた。
- ・ ゴミ拾いをしていると、「お疲れさま」「ご苦労さま」と声を掛けてくださる人がいることや、自分たち以外にもゴミ拾いを行っている人がいることに気付くことができた。

【課題】

- ・ ゴミを拾うにも限界があるので、外部機関の協力をお願いしながら活動することが必要である。
- ・ ゴミ拾い活動を続けていくことは大切であるが、市民一人一人の「ゴミのポイ捨てをしない」という意識を高めることも必要なことである。

『今後の実践活動』について（5班）

この前の話合いの結果、ゴミ拾い活動を継続して行うことになりました。

- (1) 8月2日（日）9：00～10：30 石巻駅前～石ノ森漫画館
- (2) 8月8日（土）9：00～10：30 立町裏通り（3班の活動に参加）

H27 耕人塾 5班の実践活動報告

- 1 日 時 ① 平成27年8月2日（日） 9：00～11：00
② 平成27年8月8日（土） 7：30～ 8：30
- 2 場 所 ① 石巻駅前～石ノ森萬画館
② 立町商店街裏通り
- 3 参加人数 ① 塾生3名、大学生1名、担当2名
② 担当1名（3班と合同）

4 活動内容

① 石巻駅前～石ノ森萬画館

石巻駅前から石ノ森萬画館までの路上を中心にゴミ拾いを実施した。川開き祭りの翌日ということもあり、駅前周辺のゴミ箱はゴミがあふれていた。市から委託されてゴミの後始末を行っている方がいらっしゃったが、あまりにもゴミが多すぎて片付けるのに苦労されていた。

前半は、立町商店街よりも北側の通りを歩きながらゴミ拾いを行った。前回の試し実践活動の時と同様に、たばこの吸い殻や空き缶、ペットボトルが多く捨てられていた。更地や側溝にはゴミがまとめて捨てられており、飲み残しの缶やペットボトルもあったので片付けるのに苦労した。所々にあるゴミ箱はゴミがあふれており、まだ片付けられていない様子であった。

石ノ森萬画館で一度休憩を取り、後半は立町商店街のゴミ拾いを行った。事前にゴミ拾い活動を行った団体がいたようで目立ったゴミは少なかったが、お祭りの翌日ということもあり、焼き鳥などの串や輪ゴムなどの細かいゴミが多かった。歩道の汚れがひどく、商店街の方々が水を流しながら掃除を行っていたので、ゴミ拾いだけでなく清掃活動の必要性も感じた。ゴミ拾い活動を行っている時、商店街や観光客の方々に「ご苦労様ですね」と声を掛けられることもあった。

とても暑い日で大変だったが、約2時間の活動でゴミ袋4袋分のゴミを拾うことができた。



② 立町商店街裏通り

3班の活動に参加することになっていたが、塾生の日程等が合わなかったり、連絡が不十分であったりしたため、5班からの参加者はなかった。

前回の活動から1週間経っていたので、駅前のゴミ箱はきれいに片付けられていたが、ベンチ周辺には依然として紙くずなどのゴミが捨てられていた。商店街の裏通りは人通りの少ない道ではあるが、やはりたばこの吸い殻やペットボトルなどのゴミが目立った。特に更地や駐車場などには、たばこの吸い殻がまとめて捨てられている所もあり、喫煙者のモラルのなさを痛感した。自動販売機周辺には、飲みかけの空き缶も多く、中身を捨てながら回収することもあった。また、開店していない店先に、壊れた傘や読み終えた雑誌なども捨てられていた。3班の塾生が、すれ違う人達に「おはようございます」と進んで挨拶をしながらゴミ拾いを行っている姿に感心した。

5 活動してみて

- ・ 以前、ゴミのポイ捨てを防ぐ方法として、「ゴミ箱を多く設置したらどうか」という考えが出された。しかし、今回の活動（8／2）を行ったことで、ゴミ箱はすぐにゴミであふれてしまうので、そのゴミ箱をどのように片付けていくかまで検討しないと実際には難しい。
- ・ ゴミ拾い活動を中心に行っているのだが、ゴミを拾いながら出会った人達に、進んで挨拶をするという意識も高めていくことが大切である。
- ・ お祭りやイベントなどで人が多く集まると、捨てられるゴミの量も増えるのが現状である。ゴミを捨てさせない工夫や捨てられているゴミを拾う取組などを検討し、各種行事の実行委員会などに提案してみることもよいのではないか。そのためには、他の市や団体の取組を調べることで、よりよい活動を考えるきっかけになると考える。
- ・ 班ごとの活動であるため、どうしても参加人数の確保が難しい。あまりにも少人数だと、拾う量に限界があり、市民に対する「ゴミを捨てさせない」という訴えも弱いように感じる。今後もゴミ拾い活動を行っていくのであれば、班ごとではなく全体での活動として行い、参加人数を増やしたほうがよい。

文責：石巻市立石巻小学校 教諭 阿部 宏弥